

第1回酒田市社会教育委員の会議 次第

日時：令和7年8月26日（火）午後1時30分～

場所：酒田市総合文化センター412号室

1 開 会

2 教育長あいさつ

3 自己紹介

4 座長の選出

5 座長あいさつ

6 協 議

（1）酒田市生涯学習推進計画について

7 その他

8 閉 会

令和7年度 酒田市社会教育委員名簿

任期:R7.6.1～R9.5.31

	氏 名	推薦団体等
1	鈴木 有人	酒田市小学校長会
2	鹿野 和之	酒田飽海PTA連合会
3	森 真紀子	酒田市法人保育園・認定こども園連絡協議会
4	宮内 悟	酒田市芸術文化協会
5	大泉 さゑ	酒田市市街地コミュニティ振興会連絡協議会
6	五十嵐 武	酒田市コミュニティ振興会連絡協議会
7	土井 渉夢	酒田青年会議所
8	阿部 公一	東北公益文科大学
9	富士 直志	識見を有する者
10	遠田 裕子	識見を有する者
11	渡邊 敦	識見を有する者
12	高谷 美穂	識見を有する者

事 務 局

	氏 名	役 職
1	赤坂 宜紀	酒田市教育委員会教育長
2	堀賀 泉	酒田市教育委員会教育次長
3	前田 聡子	酒田市教育委員会社会教育課長
4	丸藤 真也	酒田市教育委員会社会教育課長補佐
5	鈴木まゆみ	酒田市教育委員会社会教育課社会教育主査兼社会教育係長
6	尾形 美枝	酒田市教育委員会社会教育課社会教育主査
7	小池 多栄	酒田市教育委員会社会教育課社会教育係調整主任
8	長南 健太	酒田市教育委員会社会教育課社会教育係主事
9	工藤 暢晃	酒田市教育委員会社会教育課社会教育係主事

酒田市生涯学習推進計画（後期計画） 素案

第1章 計画の策定

1 計画策定の趣旨

近年は、人口減少・少子高齢化をはじめ、高度情報化や国際化の急速な進展、自然災害の脅威など、社会を取り巻く環境が大きく変化する中、生涯学習に対する人々の意識やニーズも多様化し、地域における課題も複雑化を増しています。

このような社会の変化に対応し、今日的な時代背景、人々の生涯学習に対する考えやニーズを踏まえた取り組みを進めるなど、一層の整備、充実を図っていく必要があります。

本市では、第3期の酒田市生涯学習推進計画（令和2年度～令和11年度）を策定し、計画の具体化に取り組んできました。「学ぶ つながる 生かす 人生100年時代の生涯学習」をキャッチフレーズに掲げ、生涯学習を推進していくため、基本的な考え方や方向性を整理し、これに基づき関連施策を進めてまいりました。

令和6年1月に第2期酒田市教育振興基本計画（後期計画）、令和7年3月に第7次山形県教育振興計画（令和7年度から概ね10年間）が策定されたことから、本計画の前期の評価を踏まえ、見直しを行うものです。

なお、本計画は期間終了後、酒田市教育振興基本計画に包含するものとし、今回の見直しでは体系図を見直し、基本方針や目指す方向について整理します。それに伴い、主な施策に関連する事業についても見直しています。

2 計画の位置づけ

本計画は、酒田市総合計画、酒田市教育振興基本計画を上位計画として、具体的に生涯学習を推進するための個別計画です。

3 計画の期間

令和8年度から令和11年度までの4年間とします。

4 国・県の動き

（1）国の動き

令和5年6月、令和5年度から9年度までを計画期間とする、第4期教育振興基本計画が策定されました。計画のコンセプトを掲げ、今後の教育政策に関する基本方針が示されています。

計画のコンセプト：

「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」

「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」

①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成

②誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進

- ③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
- ④教育デジタルトランスフォーメーション（D X）の推進
- ⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話

（２）県の動き

令和 7 年 3 月に、第 7 次山形県教育振興計画（令和 7 年度から概ね 1 0 年間）が策定されました。この計画では、目標及び県民へのメッセージ等を示すとともに、今後 5 年間に取り組む施策の方針及び主要施策の柱立てであるアクションが示されています。

目標：ウェルビーイングを目指し、多様性あふれる持続可能な社会の実現を担う
山形の人づくり

- ◆方針Ⅰ 一人ひとりが自分らしく可能性にチャレンジできる学びを実現する
 - アクション 1 自ら考え、主体的に行動する力を育む
 - アクション 2 新たな価値を創造する力を育む
 - アクション 3 互いを尊重し前向きに生きる心と体を育む
- ◆方針Ⅱ 誰一人取り残されず、誰もが続けられる学びの機会を充実する
 - アクション 4 それぞれの個性を生かし尊重した学びを実現する
 - アクション 5 生涯にわたり学びやスポーツ・文化芸術活動を楽しむ
- ◆方針Ⅲ 社会の変化に対応した学びの循環を整える
 - アクション 6 教育 D X を実現する
 - アクション 7 活力あふれる学校を実現する
 - アクション 8 家庭や地域と一体となって学びを支える

※第 5 次山形県生涯学習振興計画（平成 3 0 年度～令和 4 年度）は、期間終了後、山形県教育振興計画に包含されています。

5 本市の生涯学習

令和 2 年度から 1 0 年間の計画として策定された酒田市生涯学習推進計画に基づき、人生 1 0 0 年時代を見据え、「いつでも」「どこでも」「だれでも」、全ての市民が生涯学習活動に取り組み、自ら学び、他者とのつながり、持続可能なまちづくりにつながる生涯学習活動の充実に努めています。

また、「人生 1 0 0 年時代」をポジティブに生きがいを見出してもらうために、生涯学習事業を従来のライフステージ別から「人生はマルチステージ」と捉えて事業を展開しています。

第 2 章 計画の目標と基本方針

1 目標

《キャッチフレーズ》

学ぶ つながる 生かす 人生 1 0 0 年時代の生涯学習

《基本目標》

人づくり：自ら学び、考え、時代の変化に対応できるたくましい人を育みます

地域づくり：酒田の良さを愛し、地域社会の協働で創る担い手となる人を育み、持続可能なまちづくりに努めます

2 基本方針

- (1) 《学ぶ》人生100年時代を見据えた学びの推進
- (2) 《つながる》市民の心を豊かにする「知」の拠点図書館機能の拡充
- (3) 《生かす》生涯学習の学びの活用

3 重点施策

- (1) 図書館機能の拡充
- (2) 地域と学校の連携強化による地域づくり（酒田型スクール・コミュニティ）

生涯学習施策の体系図（後期計画）

基本目標	基本方針	主な施策
人づくり： 自ら学び、考え、 時代の変化に対応 できるたくましい 人を育みます	《学ぶ》 人生100年時代 を見据えた学び の推進	1. 生涯学習機会の提供 (1) 各種講座の充実 (2) 学習成果の発表の場の確保
		2. 家庭・学校・地域での学び (1) 家庭教育支援の充実 (2) 学校での学びの充実 (3) 地域での学びの充実
		3. 広報・情報提供体制の充実 (1) 学習情報の発信
地域づくり： 酒田の良さを愛 し、地域社会の協 働で創る担い手 となる人を育み、持 続可能なまちづく りに努めます	《つながる》 市民の心を豊か にする「知」の拠 点図書館機能の 拡充	4. 図書館機能の拡充【重点】 (1) 図書館サービスの拡充 (2) 子ども読書活動の推進
		5. 関係機関との連携の推進 (1) ミライニの利用推進 (2) 学校、大学等との連携
	《生かす》 生涯学習の学び の活用	6. 地域と学校の連携強化による地域づくり【重点】 (1) 地域学校協働活動の充実 (2) 公益活動の充実 7. 郷土愛にあふれた人材の育成 (1) 地域人材の育成

第3章 施策の展開

第1節 生涯学習機会の提供

1 現状と課題

人生を年代に捉われないマルチステージと考え、社会参加の機会をひらく社会包摂の考えを基本としながら、全ての市民が生涯学習に取り組み、自ら学び、他者とながら、持続可能なまちづくりにつながる生涯学習活動の充実に努めてきました。

仕事と生活の充実や調和を図ることが大切とされる中、個人の関心やライフスタイルも多様化しています。また少子高齢化や人口減少など社会情勢の変化による問題も出てきており、その解決のために、人々が生涯を通じて学ぶ意欲を持ち、学ぶ機会があり、その成果を生かすことができるよう支援が必要です。

2 主な施策の方向性

(1) 各種講座の充実

生涯学習は、個人の生活全体に広がりを持つ学習であり、生涯を通じた継続性を持った学習です。市民の学習ニーズに沿った内容や地域課題を解決するための内容など特色ある講座等を開催していきます。

○主な関連事業

シティプロモーション推進事業	市長公室	本市の施策や事業・制度等について、担当職員が出向いて情報提供を行う。
鳥海山・飛島ジオパーク推進事業	交流観光課	ジオツーリズムによる観光振興や自然環境の保全等を目的に、出前講座やジオツアーを行う。
男女共同参画推進事業	共生社会課	ウィズ講座等のジェンダー平等を推進する取組みを通して一人ひとりの活躍が大切にされる共生社会の実現を図る。
多文化共生推進事業	共生社会課	市民の国際交流や外国出身者の日本語学習支援により、多文化共生の推進を図る。
平田地域振興事業	平田総合支所	平田さしこの伝統的技術を後世へ伝えるため、平田さしこ教室を開催する。
生涯学習推進講座開催事業	社会教育課	「酒田愛ごはん」は、地域の料理や特産物について、現地研修や調理実習を行って学ぶ。
生涯学習推進講座開催事業	社会教育課	「スマートフォン教室」は、スマートフォンやラインの扱い方を基本から学ぶ。
生涯学習推進講座開催事業	社会教育課	「鳥海山・飛島ジオパーク講座」は、地域の自然・歴史・文化を学ぶ講座やツアーを行う。
生涯学習推進講座開催事業	社会教育課	「夏休み宿題お手伝い教室」は、子どもの居場所づくりを行いながら、宿題学習を支援する。
生涯学習振興総務管理事業	社会教育課	充実した生涯学習講座を実施する生涯学習施設「里仁館」の運営を支援する。

(2) 学習成果の発表の場の確保

日ごろの学びの成果を発表する場として、総合文化センターを中心に活動している団体等で実行委員会を組織し、生涯学習まつりを年1回実施しています。

その他にも酒田駅前交流拠点施設ミライニや出羽遊心館なども発表の場としており、公共施設をより多くの方に活用してもらいながら、生涯学習の成果の発表の場を提供していきます。

○主な関連事業

平田地域振興事業	平田総合支所	「ひらた文化祭」を開催し、平田地域の生涯学習団体の学習成果の発表を行う。
生涯学習推進講座開催事業	社会教育課	「生涯学習まつり」は、総合文化センターを利用する生涯学習団体等の学習成果の発表を行う。
生涯学習推進講座開催事業	社会教育課	「酒田マリーングジュニア合唱団」は、小・中学生が音楽を通して豊かな心を育み、異年齢の仲間づくりを進める。
生涯学習推進講座開催事業	社会教育課	「ミライニステージ」「出羽遊心館ステージ」は、公共施設施設を活用して生涯学習の発表を行う。

第2節 家庭・学校・地域での学び

1 現状と課題

子どもたちの教育は、家庭・学校・地域社会が、それぞれ適切な役割を果たしつつ、相互に連携して行われることが重要ですが、近年は少子高齢化や核家族化、共働きの増加、地域の人間関係の希薄化など、社会情勢が大きく変化しています。

家庭環境も大きく変わりつつあり、育児する保護者が孤立化しやすい状況にあり、それにより子どもの虐待や不登校など様々なリスクが高まることが懸念されています。

2 主な施策の方向性

(1) 家庭教育支援の充実

子どもたちが家庭で基本的な生活習慣や学習習慣を身に付けられるよう、また家庭での対話を大切にできるような事業を組み立てることが必要です。

また、子育ての不安や悩みなど保護者が専門家へ相談できる場や親子同士でふれあえる場、家庭教育に関する学びの場を提供するなど、家庭教育支援の充実を図っていきます。

○主な関連事業

子育てサポートプログラム実施事業	こども未来課	プログラムを通して保護者が子育ての自信を持ち、他の保護者や支援者とつながることで、保護者の孤立化を防止する。
こども家庭センター運営事業	こども未来課	児童福祉と母子保健の一体的な組織として相談支援を行い、相談を受けて支援につなぐためのマネジメント等を行う。

児童センター運営事業	保育こども園課	総合文化センターに長期休暇中の子どもの遊び場(あのもしえパーク)を設け、子育て親子の交流の場の提供を行う。
児童センター運営事業	保育こども園課	子育て親子の交流の場の提供と交流の促進、子育ての相談の受付、育児講座等を行う。
子育て支援センター運営事業	保育こども園課	子育て親子の交流の場の提供と交流の促進、子育ての相談の受付、育児講座等を行う。
母子保健事業	健康課	乳幼児健診の際、保健師や保育士などが保護者の育児相談に対応する。
生涯学習推進講座開催事業	社会教育課	「地域家庭教育講座」では、家庭の教育力を向上させるため、学校と連携して親子体験型学習などの機会を提供する。
生涯学習推進講座開催事業	社会教育課	「幼児すてっぷ出前講座」は、保育園やこども園等と連携し、遊びを通した幼児教育を実践する。
生涯学習推進講座開催事業	社会教育課	「親子ですくすく出前講座」は、保育園やこども園等と連携し、親子のふれあい体験や保護者の育児を学ぶ機会を提供する。

(2) 学校での学びの充実

本市では、令和2年度から酒田方式の小中一貫教育を進めており、その中で子どもたちにつけたい力を酒田市「まなびの樹」にたとえ、よりよい社会や幸福な人生に向けて学びをいかしていく「根の力」を育てることを重点として取り組んでいきます。

○主な関連事業

小中一貫教育推進事業	学校教育課	中学校区の実態に即した小中一貫教育推進のため、キャリア教育を含めた様々な取組みについて支援する。
生涯学習推進講座開催事業	社会教育課	「地域人材交流講座」は、専門的な知識や技能を持つ地域の人材が、学校で学習活動や支援活動を行う。
生涯学習推進講座開催事業	社会教育課	「酒田っ子はぐくみ事業」は、小・中学生がコミュニケーションやキャリア形成等について学ぶため、学校へ講師を派遣する。
酒田っ子根の力育成プロジェクト事業	社会教育課	高校生が主体となって、本市出身の詩人、吉野弘氏の詩の朗読会を上演する。

(3) 地域での学びの充実

地域が学校や子どもたちを応援・支援するという一方向の関係だけでなく、子どもを縁にし、地域と学校がパートナーとして連携・協働することで、将来を担う人材を育成していきます。

○主な関連事業

酒田っ子根の力育成プロジェクト事業	社会教育課	「チャレンジ冒険団」は、学校や年齢の違う子どもたちが集まり、自然の中で学び合う機会を提供する。
生涯学習振興総務管理事業	社会教育課	本市の社会教育の振興のため、青少年の健全育成に取り組む団体の運営支援を行う。

第3節 広報・情報提供体制の充実

1 現状と課題

生涯学習情報を市民が得る手段は、広報紙、チラシ等の紙媒体のほか、ホームページ、SNSなど多様化しています。市民の生涯学習活動を推進していくためには、自分の目的に合った生涯学習に関する情報をより得やすくする取り組みが求められています。

2 主な施策の方向性

(1) 学習情報の発信

本市では、広報紙や市公式ホームページ、カモンくんこどもニュース等で生涯学習に関する情報を提供しています。また、生涯学習サークル案内のチラシを作成し団体や活動内容等を紹介しています。

学習情報の発信のあり方について、情報を受け取る側の利便性も考慮しながら検討していきます。

○主な関連事業

生涯学習推進講座開催事業	社会教育課	「カモンくんこどもニュース」は、子どもの生涯学習情報をまとめ、学校等へ配布するほか、ホームページにも掲載する。
生涯学習推進講座開催事業	社会教育課	生涯学習サークル案内チラシを作成し、周知して会員募集の支援を行う。

第4節 図書館機能の拡充

1 現状と課題

令和4年に酒田市立中央図書館が酒田駅前に移転し、オープンしました。八幡分館、松山分館、ひらた図書センターの管理も含め指定管理者制度を導入して運営しています。本を「読む」「貸す」だけでなく、地域課題解決の支援、多様な人材の交流・学習の場の提供など、新たな役割が期待されています。

また、酒田駅前交流拠点施設ミライニとして、まちの新たな賑わい創出の拠点としても期待されています。

中央図書館が駅前交流拠点施設ミライニに移転して環境整備がされたことで、中高生にとっても以前よりも身近な場所となっています。これにより、読書への関心につながるよう、さらに効果的な取り組みが必要です。

2 主な施策の方向性

(1) 図書館サービスの拡充

「学びたい、知りたいに答え、地域課題の解決への支援を担う知の拠点」としての役割を果たすため、図書資料の充実に努める。また、レファレンス機能の向上を図るため、図書館職員の研修を実施して人材育成に努めていきます。

また、郷土資料コーナーの充実、企画展示や交流イベントの実施などにより、図書館としての魅力を高める取り組みを行っていきます。

○主な関連事業

ミライニ管理運営事業	社会教育課	職員の研修、資料の収集
------------	-------	-------------

(2) 子どもの読書活動の推進

本市では、3か月児健診時に絵本の読み聞かせや絵本をプレゼントする「ブックスタート」事業を継続しています。また、保育園・こども園には読書手帳や家読チラシを配布しながら、保護者へ絵本選びのきっかけづくりを行なうなど、切れ目のない連携を図っています。

中高生の読書活動の推進につなげるため、図書館に足を運ぶきっかけとなるようなイベントや中高生からのリクエストが多い分野の本の提供にも努めていきます。

各学校では、子どもの発達段階に応じた読書指導が進められており、自分から進んで本を手にする児童が増えているという声もあります。一方、朝読書等の機会が減少していることもあり、読書習慣の形成を図る取り組みを検討していきます。

市立中央図書館職員と小・中学校の図書専門員とが連携して研修を行い、図書業務の資質向上を図っていきます。

○主な関連事業

ミライニ管理運営事業	社会教育課	子ども読書活動推進計画の策定
------------	-------	----------------

第5節 関係機関との連携の推進

1 現状と課題

酒田駅前交流拠点施設ミライニでは、交流拠点としてさまざまな住民のニーズに応えるため、新たな情報や知見を得て地域課題解決への取り組みをしたり、交流を促進したりするため、多様な組織、団体と連携を強化していくことが重要となっています。

2 主な施策の方向性

(1) ミライニの利用推進

酒田駅前交流拠点施設として、地域の各種団体、商店街、民間企業等との連携を通して、図書館機能だけではなく、イベントやワークショップ等を開催し、多角的な学びと交流を促進する場として、賑わいを創出していきます。

様々なスポーツのパブリックビューイングやコンサート、マルシェなど開催し、ミライニを訪れるきっかけを提供していきます。

○主な関連事業

ミライニ管理運営事業	社会教育課	各種団体との連携、賑わい創出事業
------------	-------	------------------

（２）学校、大学等との連携

学校巡回文庫や団体貸出の制度を利用し、学校や保育園、コミュニティ振興会等へ本を貸し出し、読書活動を推進していきます。東北公益文科大学や他の図書館との相互貸借を行い、市民の読書活動の利便性向上を図っていきます。

○主な関連事業

ミライニ管理運営事業	社会教育課	学校巡回文庫、コミセン巡回文庫、相互貸借
------------	-------	----------------------

第６節 地域と学校の連携強化による地域づくり

１ 現状と課題

近年、少子高齢化、人口減少が進行する中で、地域における地縁的なつながりの希薄化や地域活動の担い手の減少により、家庭や地域の教育力の低下が指摘されています。学校においても、いじめや不登校、貧困などをはじめ子どもを取り巻く問題が複雑化、困難化しています。

学校と地域がそれぞれの課題を解決するためには、双方の強みを生かし、お互いに補完し合いながら、子どもたちを社会全体で育てていくことが必要となっています。

２ 主な施策の方向性

（１）地域学校協働活動の充実

本市では、中学校区をエリアとした「酒田型スクール・コミュニティ」に取り組んでいます。

これは、子どもを縁として、学校と地域が目的・目標を共有し、連携・協働しようとするもので、この地域と学校の協働活動を支援していくことにより、社会全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、地域づくり・人づくりを推進していきます。

○主な関連事業

コミュニティ振興事業	まちづくり推進課	地域課題の解決を図るため等の財源として総合交付金をコミ振に交付し、持続可能な地域づくりを支援する。
生涯学習推進講座開催事業	社会教育課	コミュニティ振興会の職員等を対象に、資質向上や情報交換のためのスキルアップ講座を開催する。

（２）公益活動の充実（※検討中）

第７節 郷土愛にあふれた人材の育成

１ 現状と課題

グローバル化が進展している現在の社会において、世界に目を向けながらも素晴らしいふるさとの自然や人、伝統、文化をしっかりと認識し、誇りと愛着を持つことがますます重要になっています。

本市出身者の中には、世界・全国に誇れる功績を持つ偉人もいて、それらを見
 童・生徒、市民全体が知る機会を創出する必要があります。

2 主な施策の方向性

(1) 地域人材の育成

生涯学習は、自分自身のための学習だけでなく、学んだ成果を生かすことにも意
 義があり、地域の教育力の向上、地域の活性化にもつながることから、地域の人材
 の育成が求められています。

そのためには、地域の歴史や文化、伝統について、地域住民から直接話を聞いた
 り実際に体験したりする機会を提供していくことによって、子どもたちがふるさと
 への誇りを身に付けていく土壌をつくっていきます。

また、持続可能な地域づくりを目指すためには、コミュニティ組織の人材育成が
 重要なので、研修や情報交換の場を設けて、職員の資質向上を図っていきます。

○主な関連事業

コミュニティ振興事業	まちづくり推 進課	地域人材を育成する研修等の費用を総合交付金として交付 し、コミ振の人材育成の支援を行う。
松山地域振興事業	松山総合支 所	松山の歴史・文化を語り合う茶話会を開催する。伝統芸能の 担い手育成に繋げる体験事業を開催する。
生涯学習推進講座開 催事業	社会教育課	「酒田愛ごはん」は、地域の料理や特産物について、現地研修 や調理実習を行って学ぶ。
生涯学習推進講座開 催事業	社会教育課	「地域人材交流講座」は、専門的な知識や技能を持つ地域の 人材が、学校で学習活動や支援活動を行う。
生涯学習推進講座開 催事業	社会教育課	「鳥海山・飛島ジオパーク講座」は、地域の自然・歴史・文化を 学ぶ講座やツアーを行う。
二十歳を祝う成人の 集い開催事業	社会教育課	成人の集い対象者である実行委員が自主的に式典の企画・ 運営をすることで、地域で活躍できる人材の育成を目指す。

○目標数値

1. 生涯学習機会の提供

	指標	現状 令和6年度	目標 令和11年度
1	生涯学習まつり参加団体数	42 団体	増加させる

2. 家庭・学校・地域での学び

	指標	現状 令和6年度	目標 令和11年度
1	生涯学習講座回数	390 回	増加させる
2	生涯学習講座満足度（参加者アンケート）	99%	100%

3. 広報・情報提供体制の充実

	指標	現状 令和6年度	目標 令和11年度
1	ホームページ閲覧数（社会教育分野）	51,274 回	増加させる

4. 図書館機能の拡充

	指標	現状 令和6年度	目標 令和11年度
1	市民1人あたり館外貸出冊数	4.75 冊	増加させる
2	15歳未満の1人あたり図書貸出冊数	14.49 冊	増加させる

5. 関係機関との連携の推進

	指標	現状 令和6年度	目標 令和11年度
1	ミライニの入館者数	483,292 人	増加させる

6. 郷土愛にあふれた人材の育成

	指標	現状 令和6年度	目標 令和11年度
1	地域人材交流講座の延べ回数	265 回	280 回 (28 校×10 回)
2	地域の教育力向上 スキルアップ講座の参加人数	25 人	36 人 (コミ振×1 人)

酒田市生涯学習推進計画(後期計画)について

○各計画の計画期間

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
国	第3期教育振興 基本計画			第4期教育振興 基本計画							
県	第6次山形県教育振興 計画(後期計画)					第7次山形県教育振興計画					
県	第5次山形県生涯 学習振興計画			県生涯学習振興計画は、県教育振興計画に包含された							
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
市	酒田市総合計画 (前期)			酒田市総合計画 (後期)							
市	第2期酒田市教育振興 基本計画(前期)				第2期酒田市教育振興 基本計画(後期)						
市	酒田市生涯学習推進計画 (前期)						酒田市生涯学習推進計画 (後期)				
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12

○酒田市生涯学習推進計画(後期計画)スケジュール(案)

8月	第1回社会教育委員の会議(素案を協議)
10月	酒田市生涯学習推進委員会(庁内で協議)
10月	教育委員会定例会(協議)
11月	第2回社会教育委員の会議(計画案を協議)
11月	教育委員会定例会(協議)
12月	市議会総務常任委員協議会(報告)
12月	パブリックコメント

酒田市生涯学習推進計画の関連事業 前期の振り返り

基本施策Ⅰ 生涯学習の機会や場の充実 <学ぶ>

I-1 人生100年時代を見据えた学びの推進

(1) 全世代を対象にした事業の充実 (2) 乳幼児期を対象にした事業の充実 (3) 高齢期を対象にした事業の充実

No.	事業名	前期計画(R2～R6)の評価 成果(○)と課題(●)	改善点、方向性、今後の計画	担当
1	シティプロモーション推進事業	○出前講座は、消費生活、災害対策、健康づくりに関する講座の申し込みが多かった。直接職員が市民と対話して情報提供できる場として効果がある。	・出前講座は、申し込みが無いメニューもあり、内容の見直しや分かりやすいメニュー名に変更する等の改善が必要。	市長公室
2	文化資料館管理運営事業	○光丘文庫所蔵資料については、光丘文庫閉館(R5)までは、ミライニでも展示して紹介した。文化資料館光丘文庫開館後(R6)は、同館で展示を実施した。 ●文化資料館光丘文庫における光丘文庫時代からの所蔵資料の活用方法や、利用者への情報発信などの諸課題の検討が必要。	・光丘文庫の所蔵資料の活用方法等については、文化資料館協議会にて専門家の意見を頂きながら検討していく。	文化政策課
3	老人クラブ助成事業、シルバー人材センター補助事業、介護予防・生活支援サービス事業、一般介護予防事業、高齢者の生きがいと健康づくり総合推進事業、認知症総合支援事業	○シルバー人材センターの会員数は増加を続けており、高齢者への就労機会の提供により、健康維持や生きがいづくりおよび社会参加に貢献している。 ○市民認知症講演会や介護予防事業はコロナの影響で参加者は減少したが、介護予防事業では、コミ振事業や、地域住民主体の通いの場が増加している。 ●老人クラブの活動(高齢者の生きがいと健康づくり総合推進事業含む)は、高齢者のライフスタイルの多様化により、クラブ数及び会員数が減少している。	・老人クラブ及びシルバー人材センターの活動に対して引き続き支援を行う。 ・認知症講演会などの各種講演会による普及啓発を図っていく。 ・介護予防事業の定着および取組強化を図るため、事業を継続していく。	高齢者支援課
4	子育て支援センター運営事業・つどいの広場事業	○各種子育て講座を開催し、育児力の向上を図るとともに、育児に対する不安・負担感の解消に努めている。 ●コロナ禍(R3)に移転した酒田子育て支援センターは、利用人数が増加しているが、その他の支援センターは、少子化や入園の低年齢化、入園率の増加などの要因もあり、コロナ以前の水準には戻っていない。	・子育て支援拠点施設として、子育ての相談を受け、育児の不安・負担感を軽減することは重要なため、各事業を通して足を運ぶきっかけを作り、気軽に来所して相談しやすい環境づくりに努める。	保育こども園課
5	児童センター運営事業	○各種子育て講座を開催し、育児力の向上を図るとともに、育児に対する不安・負担感の解消に努めている。 ●利用人数はコロナ後から回復傾向だが、大型屋内遊具の老朽化、少子化や入園の低年齢化、入園率の増加、近隣自治体での類似施設の整備など複合的な要因もあり、コロナ以前の水準には戻っていない。	・子育て支援拠点施設として、子育ての相談を受け、育児の不安・負担感を軽減することは重要なため、各事業を通して足を運ぶきっかけを作り、気軽に来所して相談しやすい環境づくりに努める。	保育こども園課

6	生涯学習推進講座開催事業	○スマートフォンの使い方教室は、初心者も実際の機器を体験して学ぶことで理解が深まった。 ●参加者のスマートフォンの習熟度に差があり、受け止め方にばらつきがあった。 ○幼児すてっぷ出前講座では、遊びや運動、友だちとの共同作業などをとおして、豊かな感性や創造性等を育む機会を持つことができた。	・スマートフォンの使い方教室は、ニーズがあるため、継続していく。 ・幼児すてっぷ出前講座は、人気が高いため、予算を確保して対応していきたい。	社会教育課
---	--------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------	-------

I－2生涯学習機会の提供

(1)各種講座の提供 (2)学習成果の発表の場の確保

No.	事業名	前期計画(R2～R6)の評価 成果(○)と課題(●)	改善点、方向性、今後の計画	担当
7	シティプロモーション推進事業(再掲)	○出前講座は、消費生活、災害対策、健康づくりに関する講座の申し込みが多かった。直接職員が市民と対話して情報提供できる場として効果がある。	・出前講座は、申し込みが無いメニューもあり、内容の見直しや分かりやすいメニュー名に変更する等の改善が必要。	市長公室
8	地域デジタル人材等育成業務 ※終了	○社会人向けのIT関連講座として、公益大の4つの履修証明プログラムを開講した。また、IT技術に関する一般向けのイベントを開催した(R2～R6)。履修証明プログラムでは、「リカレント教育促進補助金」を制度化して社会人の受講を促し、職業キャリア形成を支援した(R3～R5)。 ●履修証明プログラムを受講する社会人は少なく、「リカレント教育促進補助金」も限られた人数への交付となった。社会人が長期間、定期的に講義に参加することは容易でなく、学びのニーズや在り方を検討する必要がある。なお、公益大では、さまざまなテーマにわたる一般向け公開講座を開催しており、参加者数も多い。このような催しを効果的にPRし、広く働きかけていく必要がある。	・公益大は、令和8年4月の公立化に向けて協議を進めており、酒田市として委託すべき内容を見直す。 ・R7から、履修証明プログラムの業務委託を除外する予定。公益大と連携した学習機会の在り方について検討する必要がある。	企画調整課
9	文化財保護総務管理事業	○公演により、地域の民俗芸能を発表する場を確保し、担い手のモチベーションの向上につなげるとともに、継承のための土台を築くことができた。 ●酒田市民俗芸能保存会に未加入の団体に対しては、発表の場を提供することができていない。	・民俗芸能保存会未加入団体への発表の場を提供するため、未加入団体情報を収集し、保存会加入を推進していく。	文化政策課
10	文化振興総務管理事業	○市民芸術祭では、市民の文化芸術活動を広く公表する場として、文化芸術団体及び個人による展示や発表を実施し、多くの市民が文化芸術に触れる機会を創出した。 ●文化芸術団体へ未加盟の市民への周知が十分ではなく、関心度が低い。	・R7から市民芸術祭の主催は市芸術文化協会に移行する。市民の自主的な文化芸術活動への参加推進のため、同協会の体制強化・法人化を支援していく。	文化政策課

11	女性活躍推進事業	<p>○女性活躍応援セミナー(1回)、地元高校生への進路サポート講座(3回)を開催し、地元で働く女性が、自分らしく働くための意識啓発や意欲向上を支援した。</p> <p>○高校生の進路サポート講座では、地元で働くロールモデルとなる女性を講師に、一旦県外に出てもUターンが選択肢に残るよう、地元の魅力を伝えた。</p> <p>●女性活躍応援セミナーに関しては、女性の自己肯定感を底上げするような内容の実施が今後も必要である。</p> <p>●高校生の進路サポート講座は継続実施することで数年後を見据えたUターンの啓発につながるため、今後も事業を継続する必要がある。</p>	<p>・各高校に進路サポート講座の需要調査を行い、今後も実施を継続していく。</p> <p>・これまでの女性活躍応援セミナーは、女性の自己肯定感を上げる趣旨だったが、そのためには地元社会の男性優位の意識・風土の解消などが考えられるため、男女共同参画を担う共生社会課へ移管する。</p>	商工港湾課
12	鳥海山・飛島ジオパーク推進事業	<p>○ジオパークガイド養成講座では、認定ガイドが各地で活躍し、鳥海山・飛島ジオパークの魅力を伝えている。定期船船上ガイドや飛島島内を短時間で巡るワンコインツアー、各ジオサイトでのガイド活動は好評を博している。</p> <p>●ジオパークガイド養成講座では、ガイドの高齢化とともに、認定ガイドになった後にガイド活動に参加する人が固定化してきている。</p>	・鳥海山・飛島ジオパークガイド養成講座については、新規受講者の確保と実際にガイドとして活躍する人材の育成を行っていく。	交流観光課
13	鳥海山・飛島ジオパーク推進事業	<p>○トビシマカンゾウ保全作業では、飛島小松浜に生息する市の花「トビシマカンゾウ」の保全作業を市民が行い、現在は100株以上の開花が確認されている。</p> <p>●トビシマカンゾウ保全作業は、リピーターが一定数いるが、参加者が固定化してきている。</p>	・トビシマカンゾウ保全作業は、幅広い世代が参加できるよう周知を行っていく。	交流観光課
14	飛島活力再生推進事業 ※終了	<p>○島民・大学・NPO・県・市が協議会組織を運営し、とびしま未来協議会を開催しながら、将来の飛島のあるべき姿に向けて、島民主体の事業を展開してきた。</p> <p>○移住定住希望者への対応や外部人材の活動サポート、島民意見の集約など、飛島における諸活動を担ってきた。</p> <p>○未来協議会主体の事業は地元企業などに引き継ぎ、R5以降は有志によるテーマ持ち寄り型の情報交換会をメインとし、予算事業を組まず継続している。</p>	・有志によるテーマ持ち寄り型の情報交換会をメインとし、予算事業を組まず継続していく。	まちづくり推進課
15	環境対策事業 ※終了	<p>○ゴーヤを使った緑のカーテンは、エネルギー消費削減に繋がるもので、簡単に取り組める省エネ・地球温暖化対策として推進してきた。</p> <p>○廃食用油を使ったエコキャンドル作成事業は、小学校高学年を対象にして、ゴミの減量化や省エネについて考えてもらい、環境教育にも寄与してきた。</p>	・緑のカーテン・エコキャンドルの事業は、は14年以上経過し、市民の認知度も高まったと捉えているため、終了した。	環境衛生課
16	男女共同参画推進事業	<p>○各種講座を通じ、多様性を尊重する意識づくりやアンコンシャス・バイアスの解消、男性の家事育児参画促進など、市民の男女共同参画の意識を醸成した。</p> <p>●男女共同参画に関する講座において、参加者が少ない場合がある。</p>	・男女共同参画に関する講座は、より多くの市民参加を得るため、内容や周知方法を工夫する。	共生社会課

17	多文化共生推進事業	<p>○国際交流まつりや異文化理解講座を開催し、在住外国人と市民との交流や相互理解を深めた。</p> <p>○日本語教室では、日本語学習希望者が年々増える中、日本語学習の機会を継続して提供することができた。</p> <p>●日本語教室では、日本語学習機会者が増加する一方、支援者の担い手不足が課題にあがっている。</p>	・日本語教室において、日本語学習支援に関心を持っていただける方が増えるように、活動の情報発信や、支援に関心がある方に向けた講座開催など引き続き実施していく。	共生社会課
18	ミニ飛島講座誘客宣伝・利用促進事業	<p>○定期船1日2航海時(4～8月)の1便船内で実施。R6年度は34回開催し、1,110人の参加があった。</p> <p>●本事業を依頼しているジオパークガイドの会より、繁忙期のガイドの確保や新しいガイドの育成が課題と伺っている。</p>	・引き続き、継続的にミニ飛島講座を実施していきたい。	定期航路事業所
19	地域生活支援事業	<p>○障がい者のスポーツ大会・軽スポーツ大会・スポーツ教室は、障害者の社会参加、相互交流、健康の保持、心身のリフレッシュが図られ、障がい者スポーツが普及する場を提供している。</p> <p>●参加者の高齢化。</p>	・障がい者のスポーツ大会・軽スポーツ大会・スポーツ教室は、幅広い世代の参加推進を図りながら継続していく。	地域福祉課
20	認知症総合支援事業	●認知症カフェは、参加者の減少と固定化が進んでおり、新規の方でも気軽に参加できる内容や環境の整備が必要となっている。	・認知症カフェは、本人や家族等が気軽に参加できるよう、引き続き実施してく。	高齢者支援課
21	シルバー人材センター補助事業(再掲)	○酒田市シルバー人材センターの会員数は増加を続けており、高齢者への就労機会の提供により、健康維持や生きがいづくりおよび社会参加に貢献している。	・シルバー人材センターの活動に対して引き続き支援を行う。	高齢者支援課
22	八幡地域振興事業	<p>○クラシックコンサートは、芸術文化を鑑賞する機会や発表・交流の場として、一定の参加団体や観客数を獲得して地域に定着している。</p> <p>●百人一首かるた大会は、参加者が固定化や高齢化により減少している。</p>	・幅広い年代の学習意欲を高め、芸術文化の鑑賞機会や交流の場として地域活性化を図る。	八幡総合支所
23	八幡地域振興事業	<p>○地域おこし協力隊は、地域住民との協働による地域活性化のイベントを実施、地域づくりに貢献している。</p> <p>●隊員の退任後の地域づくりに関連した起業、地域への定住や再就職。</p>	・隊員が住民として地域活動に参画するとともに、地域住民や団体と協働して活動することで、地域活性化を図る。	八幡総合支所
24	松山地域振興事業	<p>○芸術団体が実施する展示や発表の活動について、地域住民へPRの支援を行うことで、一定の参加団体や観客数を獲得して地域に定着している。</p> <p>●芸文協松山支部会員が減少している。</p>	・引き続き、芸文協松山支部やコミュニティ振興会等の取組へ協力を行う。	松山総合支所
25	松山地域振興事業	<p>○地域おこし協力隊は、食や料理の地域資源を活用し、住民と協働して賑わいを創出し、地域活性化を図った。退任後も地域内で定住、就職を果たした。</p> <p>●退任後の起業支援及び定住支援。また継続した隊員の採用。</p>	・地域おこし協力隊は、R6から未着任のため、新たな隊員を募集していく。	松山総合支所

26	ひらたタウンセンター管理事業	○筋力トレーニングは、利用者より健康づくりに貢献していると評価されている。 ●トレーニング器具が老朽化している。	・老朽化したトレーニング器具の更新と整備を行っていく。	平田総合支所
27	平田地域振興事業	○平田さしこ教室については、教室を開催したことで伝統的技術を後世に伝え、豊かな人材を育成するため、生涯学習の場を提供している。また、ミライニに製品を展示し、刺し子のPRを行っている。 ●講師である平田さしこの会の高齢化が進んでいる。	・引き続き各種講座の魅力を発信し、講座の提供、発表の場の確保に努める。	平田総合支所
28	平田地域振興事業	○ひらた文化祭については、新たな体験型の企画も加わることで地域の芸術文化への関心が深まり、生涯学習の機会の提供が図られた。	・引き続き学習成果の魅力を発信し、発表場の確保に努める。	平田総合支所
29	応急手当普及啓発事業	○事業所、各種団体及び教育機関に対して救命講習会を実施し、バイスタンダー(救急現場に居合わせた人)の育成が図られた。 ○簡易的な心肺蘇生訓練キットを活用し、小学校高学年を対象に「ジュニア救命講習会」を実施し、命の大切さや救命法の重要性を根付かせることができた。 ●コロナの影響により救命講習会を中断し受講人数が減少した時期もあったが、現在まで受講人数は増加傾向にある。 ●小学校の参加が増えるよう講習内容を検討し、広報活動を継続していく。	・引き続き感染防止に努め、継続的に救命講習を実施する。 ・各小学校へ広報活動を継続し、救命講習会の裾野を広げ、将来的な救命率の向上につなげる。	消防本部救急課
30	生涯学習推進講座開催事業	○生涯学習まつりは、団体間の交流を深めながら、日ごろの学習成果の発表ができた。 ●生涯学習まつりの開催日は、行事が重複する時期なので、日程の検討が課題である。 ●生涯学習まつりは、参加団体の高齢化が進み、参加数は減少傾向にある。 ○酒田マリーングジュニア合唱団は、子どもたちが異年齢の仲間と一緒に、歌う喜びや達成感を味わうことができた。 ●酒田マリーングジュニア合唱団は、団員が減少傾向で、新規入団が少ない。	・生涯学習まつりは、引き続き、日程を検討しながら、継続していく。 ・酒田マリーングジュニア合唱団は、新規メンバーの募集に努めていく。	社会教育課

I-3 家庭・学校・地域の連携

(1) 家庭教育支援の充実 (2) 学校での学びの充実 (3) 地域での学びの充実 (4) 連携による事業の充実

31	酒田市文化芸術推進事業	○アーティストを招聘し小学校等を訪問するアウトリーチ事業により、環境によらず子どもたちが質の高い文化芸術に触れる機会を得ることができた。 ○地域コンサートでは、普段希望ホール等の公演に来ることが難しい層がワンコインで気軽に文化芸術に触れる機会を得られた。 ○障がい者アート展では福祉事業所からも出展していただき、希望ホールのほかミライニ等の施設の協力を得ながら実施するなど、広がりを見せている。 ●地域コンサートは親子連れなどが気軽に鑑賞できることが趣旨の一つだが、それが十分に理解されず、子どもが鑑賞の妨げになるなどの苦情がある。 ●障がい者アートの魅力周知は、関係者以外への広がりが未だ途上にある。	・小学校アウトリーチは、学校のニーズを把握しながら、引き続き子どもたちが文化芸術に触れる機会を提供していく。 ・地域コンサートは、趣旨をチラシに明記して理解を得ながら開催していく。 ・障がい者アート展は、今後目指す姿をイメージしながら、更なる連携等により広く魅力を発信できる場としていく。	文化政策課
----	-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------

32	コミュニティ振興事業	<p>○ひとづくり・まちづくり総合交付金では、コミ振の運営及び自治振興、環境衛生、防災防犯、健康福祉、生涯学習等の活動を支援した。また、地域のコーディネーターを育成する研修費用等を加算交付し、組織の育成・強化を図った。</p> <p>●地域の将来を担う地域コミュニティ組織(自治会、コミ振)の運営に携わる人材、課題解決の実践を仕掛けることができる人材の不足。</p> <p>●地域の教育力向上事業加算は、旧公民館地区及び旧3町地区のみとなっており、市街地からも加算してほしいとの要望がある。</p>	<p>・総合交付金による支援に加え、市関係課や社会福祉協議会などの関係機関と連携し、地域の課題解決の話し合いを一緒に企画・運営し、人的にも支援していく。</p>	まちづくり推進課
33	地域福祉推進事業	<p>○福祉の担い手育成事業では、R2～R5で延べ1,373人の児童が参加。R6は事業初の障がい者交流体験を小学校2校で開催、高齢者疑似体験も初めて中学校1校で開催と需要が拡大した。</p> <p>○事業を市社会福祉協議会へ委託したことで、市民ボランティアの参加および補装具の取り扱い研修を受けた職員による安全な講習を実施できた。</p>	<p>・法が改正され、障がいがある人への合理的配慮が義務化された。児童が共生社会を考える一助となるよう内容充実を図る。</p> <p>・ボランティアが減少しているため、少人数でも実施できるプログラムを開発し、持続可能な事業として継続する。</p>	地域福祉課
34	こども家庭センター運営事業	<p>○妊娠・出産・子育て包括支援(ネウボラ)事業では、R5よりこども未来課にこども家庭センターぎゅっとを開設、子育て世代包括支援センター機能と子ども・家庭総合支援室を一体的な相談窓口を設置した。産後骨盤ケア教室やぎゅっとサロン、健康課ではマタニティ教室により、妊娠中から子育てを学ぶ機会となっている。</p>	<p>・妊娠・出産・子育て包括支援(ネウボラ)事業では、産後骨盤ケア教室やぎゅっとサロン、健康課ではマタニティ教室により、妊娠中から子育てを学ぶ機会となっている。</p>	こども未来課
35	こども家庭センター運営事業	<p>○児童虐待防止事業については、児童虐待防止研修会を実施し、児童虐待防止の普及啓発に役立った。</p> <p>●児童虐待防止事業については、実施団体であるCAP庄内がコロナの影響により実施不可となった。</p>	<p>・児童虐待について、児童虐待防止研修会を開催していく。</p>	こども未来課
36	母子保健事業	<p>○こども家庭支援センターぎゅっとの開設に伴い、子育て世代包括支援センターぎゅっとの業務をこども未来課(本庁舎)に移管している。</p> <p>○マタニティ教室では家族と一緒に参加する妊婦が多く、安心して妊産期を過ごせるよう、家族で赤ちゃんを迎える準備や育児のイメージを膨らませる機会となっている。</p> <p>●妊娠出産子育ての社会情勢を踏まえつつ、参加者のニーズに応えられるような内容の見直しが必要である。</p>	<p>マタニティ教室は今後も妊婦や参加者のニーズに応えながら継続していく。</p>	健康課
37	つどいの広場事業	<p>○商店街の空き店舗を子育て支援の拠点として活用し、育児に対する不安・負担感の解消に努めている。</p> <p>●コロナ禍以降、利用人数は回復傾向にあるが、少子化や入園の低年齢化、入園率の増加などの要因もあり、コロナ以前の水準には戻っていない。</p>	<p>・商店街の空き店舗を使う事で地域の活性化にもつながり、同時に育児に対する不安・負担感を軽減する場を提供することができるため継続していく。</p>	保育こども園課
38	小中一貫教育推進事業	<p>○職場体験事業やキャリア教育事業では、児童生徒の実態に合わせながら、職場体験や、進路講話、職場見学等を行い、様々な職業の学習ができています。</p> <p>●児童生徒のニーズに合った職業に触れさせるためには、地域企業の受け入れへの理解や協力が必要となる。</p>	<p>・各学校の児童生徒の実態に合わせ、地域の人・もの・ことを活用したキャリア教育を実施していく。</p>	学校教育課

39	生涯学習推進講座開催事業	○夏休み宿題お手伝い教室は、子どもの居場所づくりや仲間づくりを行いながら、勉強もできた。子どもの遊び場(あのもしえパーク)の期間中なので、休憩時間に遊ぶこともできた。 ●会場の総合文化センターまでの子の送迎が大変だという声があった。また、送迎できないため参加できないという声もあった。	・夏休み宿題お手伝い教室は、今後も継続していく。	社会教育課
----	--------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------	-------

基本施策Ⅱ 生涯学習活動の支援体制の充実 <つながる>

Ⅱ－1広報・情報提供体制の充実

(1)学習情報発信のあり方 (2)人材の活用と育成 (3)相談体制の充実

No.	事業名	前期計画(R2～R6)の評価 成果(○)と課題(●)	改善点、方向性、今後の計画	担当
40	シティプロモーション推進事業	○講座、サークル会員募集などを年1回掲載している。広報紙への掲載希望の抑制効果はあるものと認識している。 ●チラシ掲載により生涯学習推進の効果がでてこない(掲載が無くて例年通り会員が集まった例もある)。費用に見合った効果があるのかは疑問。	・今後も、サークル会員募集の掲載を継続していく。	市長公室
41	意思疎通支援事業	○手話の習得、手話奉仕員の登録者増を目的に手話奉仕員養成講座、ステップアップ講座を開催している。 ●講座の受講者数や手話奉仕員の登録者数は横ばい状態にある。	手話教室の開催により手話奉仕員の育成を図り、障がい者等の福祉の増進のため継続していく。	地域福祉課
42	食習慣改善事業	○食生活改善推進員養成講習会の情報を広報や市ホームページに掲載、また会員を通して呼びかけしている。 ○講習を修了した人は、翌年に食生活改善推進協議会の会員となり、地域の健康増進の一助となるようにさらに研修を積み重ねていく。 ●仕事がある人は、講習会日程が合わないこともあり、人員確保が難しい。 ●高齢により退会する推進員が多い。若い世代へのアプローチが必要。	・講習会の情報を広報等に掲載し、会員を通じた呼びかけとともに、若い世代へのアプローチも継続していく。	健康課
43	体育施設管理事業	○体育施設予約管理システムの運営ほか、システムを利用するための利用者登録を、市のkintoneを使ったオンラインで申請できるようにした。 ●体育施設予約管理システムの更新を検討する。	・体育施設予約管理システムの更新を行い、抽選機能実装や各種決済方法導入を検討する。	スポーツ振興課
44	生涯学習推進講座開催事業	○カモンくんこどもニュースでは、子ども対象事業を児童生徒全員へ配布し、周知できた。 ●年5回の発行では、タイムリーな情報提供ができないので、ホームページ等の媒体も活用する。	・今後も、カモンくんこどもニュースは、発行していく。	社会教育課

Ⅱ－2関連施設の利活用

(1)利用者ニーズの対応 (2)生涯学習関連施設の利活用

45	生涯学習施設 管理運営事業	○生涯学習施設の利活用促進のため、生涯学習の発表の場とする企画(出羽遊心館ステージ)を新たに始めた。 ●老朽化が進んだ施設が多く、維持管理の負担コストが増えている。	・施設の利活用を図りながら、利用者が安全に使用できるよう、計画的に修繕、更新を実施していく。	社会教育課
----	------------------	---------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------	-------

基本施策Ⅲ 生涯学習の成果の活用 <生かす>

Ⅲ－1学校・大学との連携の推進

(1)各種教育機関との連携 (2)学生と市民との学習交流活動の推進

No.	事業名	前期計画(R2～R6)の評価 成果(○)と課題(●)	改善点、方向性、今後の計画	担当
46	地域デジタル 人材等育成業 務 (再掲)※終了	○社会人向けのIT関連講座として、公益大の4つの履修証明プログラムを開講した。また、IT技術に関する一般向けのイベントを開催した(R2～R6)。履修証明プログラムでは、「リカレント教育促進補助金」を制度化して社会人の受講を促し、職業キャリア形成を支援した(R3～R5)。 ●履修証明プログラムを受講する社会人は少なく、「リカレント教育促進補助金」も限られた人数への交付となった。社会人が長期間、定期的に講義に参加することは容易でなく、学びのニーズや在り方を検討する必要がある。なお、公益大では、さまざまなテーマにわたる一般向け公開講座を開催しており、参加者数も多い。このような催しを効果的にPRし、広く働きかけていく必要がある。	・公益大は、令和8年4月の公立化に向けて協議を進めており、酒田市として委託すべき内容を見直す。 ・R7から、履修証明プログラムの業務委託を除外する予定。公益大と連携した学習機会の在り方について検討する必要がある。	企画調整課
47	大学まちづくり 推進事業	○公益大に対し、バス回数券費用の一部を補助した。学生がバスを利用して、フィールドワーク、地域活動、アルバイトといった街なか活動を行うことにより、地域の活性化及び市民の公益大に対する興味関心や愛着心の醸成に繋がった。 ●公益大生による街なか活動が継続的に行われることが必要。また、サークル活動やボランティア活動など、市民との交流機会の増加が必要。	・今後も公益大と連携し、学生と市民との学習交流活動を推進する。公益大では一般向けの公開講座などさまざまな取り組みを行っているため、市としてもPRする。	企画調整課
48	飛島活力再生 推進事業 (再掲)※終了	○島民・大学・NPO・県・市が協議会組織を運営し、とびしま未来協議会を開催しながら、将来の飛島のあるべき姿に向けて、島民主体の事業を展開してきた。 ○移住定住希望者への対応や外部人材の活動サポート、島民意見の集約など、飛島における諸活動を担ってきた。 ○未来協議会主体の事業は地元企業などに引き継ぎ、R5以降は有志によるテーマ持ち寄り型の情報交換会をメインとし、予算事業を組まず継続している。	・有志によるテーマ持ち寄り型の情報交換会をメインとし、予算事業を組まず継続していく。	まちづくり推進課

Ⅲ－2地域活動との連携の推進

(1)地域の歴史と文化を学ぶ機会の充実 (2)コミュニティ組織の育成・強化

No.	事業名	前期計画(R2～R6)の評価 成果(○)と課題(●)	改善点、方向性、今後の計画	担当
49	文化財保護総務管理事業	○公演を開催することにより、市民が広く地域の芸能文化に触れる機会を創出し、地域の伝統を尊重する機運を醸成することができた。 ●公演の来場者の減少傾向が続いており、コロナ前の水準には戻っていない。	・民俗芸能への関心を高めるため、民俗芸能に馴染みのない層にも情報発信を検討するほか、市外からの民俗芸能団体の招待を継続する。	文化政策課
50	史跡旧鎧屋修復事業	○修復工事中の旧鎧屋でワークショップを開催し、市民の方々から旧鎧屋を再認識してもらうとともに、愛着を持ってもらうことができた。	・旧鎧屋修復工事ワークショップは、工事の進捗を考慮しながら、実施していく。	文化政策課
51	鳥海山・飛島ジオパーク推進事業(再掲)	○ジオパークガイド養成講座では、認定ガイドが各地で活躍し、鳥海山・飛島ジオパークの魅力を伝えている。定期船船上ガイドや飛島島内を短時間で巡るワンコインツアー、各ジオサイトでのガイド活動は好評を博している。 ●ジオパークガイド養成講座では、ガイドの高齢化とともに、認定ガイドになった後にガイド活動に参加する人が固定化してきている。	・鳥海山・飛島ジオパークガイド養成講座については、新規受講者の確保と実際にガイドとして活躍する人材の育成を行っていく。	交流観光課
52	鳥海山・飛島ジオパーク推進事業	○トビシマカンゾウ保全作業では、飛島小松浜に生息する市の花「トビシマカンゾウ」の保全作業を市民が行い、現在は100株以上の開花が確認されている。 ●トビシマカンゾウ保全作業は、リピーターが一定数いるが、参加者が固定化してきている。	・トビシマカンゾウ保全作業は、幅広い世代が参加できるよう周知を行っていく。	交流観光課
53	三島交流・飛島活力再生推進事業 ※終了	○三島交流は毎年1回、各島持ち回りで交流事業をR4まで行った。 ○島民・大学・NPO・県・市が協議会組織を運営し、とびしま未来協議会を開催しながら、将来の飛島のあるべき姿に向けて、島民主体の事業を展開してきた。 ○移住定住希望者への対応や外部人材の活動サポート、島民意見の集約など、飛島における諸活動を担ってきた。 ○未来協議会が主体となっていた事業は地元企業などに引き継ぎ、R5以降は有志によるテーマ持ち寄り型の情報交換会とし、予算事業を組まず継続している。	・三島交流については、今後はオンラインを中心に民間団体や行政間の情報交換の場とする。民間が中心となり、担当課がサポートする形で継続していく。 ・未来協議会については、有志によるテーマ持ち寄り型の情報交換会をメインとし、予算事業を組まず継続していく。	まちづくり推進課
54	コミュニティ振興事業(再掲)	○ひとづくり・まちづくり総合交付金では、コミ振の運営及び自治振興、環境衛生、防災防犯、健康福祉、生涯学習等の活動を支援した。また、地域のコーディネーターを育成する研修費用等を加算交付し、組織の育成・強化を図った。 ●地域の将来を担う地域コミュニティ組織(自治会、コミ振)の運営に携わる人材、課題解決の実践を仕掛けることができる人材の不足。 ●地域の教育力向上事業加算は、旧公民館地区及び旧3町地区のみとなっており、市街地からも加算してほしいとの要望がある。	・総合交付金による支援に加え、市関係課や社会福祉協議会などの関係機関と連携し、地域の課題解決の話し合いを一緒に企画・運営し、人的にも支援していく。	まちづくり推進課

55	自然共生推進事業	<p>○猛禽類保護センターは、年5,500人程の来館者がある。年5回程実施する自然観察会は、希少猛禽類や自然の大切さの普及啓発につながっている。</p> <p>●センターには、職員2名が常駐し、館内案内やイベント運営を行っているが、さらなる事業実施のため増員が必要と考える。</p> <p>○「鳥海イヌワシみらい館友の会」は、30人程度(R6)の会員数だが、自然観察会等のイベントを支援していただき、コミュニティ拡大につながっている。</p> <p>●各イベントの参加者はリピーターが多く、新規が少ない。コミュニティの拡大方法は今後検討する必要がある。</p>	<p>・現在はセンターの職員と「友の会」の補助で足りているが、事業を拡大する場合は増員を検討していく。</p> <p>・センターのイベントはリピーターが多いため、新規参加者を得るため情報を発信していく必要がある。</p>	環境衛生課
56	八幡地域振興事業	<p>○鳥海山飛島ジオパーク特別企画大沢雪まみれ&スペシャル鍋を楽しむ会では、ジオパークの魅力を発信し、地域活性化に貢献している。</p> <p>●次回以降の内容の企画立案</p>	・地域住民の文化意識や学習意欲を高め、交流の場として、地域活性化への貢献を図る。	八幡総合支所
57	八幡地域振興事業(再掲)	<p>○地域おこし協力隊は、地域住民との協働による地域活性化のイベントを実施、地域づくりに貢献している。</p> <p>●隊員の退任後の地域づくりに関連した起業、地域への定住や再就職。</p>	・隊員が住民として地域活動に参画するとともに、地域住民や団体と協働して活動することで、地域活性化を図る。	八幡総合支所
58	松山地域振興事業	<p>○松山の宝推進事業では、地域の歴史や文化を詳しく知ること、地域への誇りや愛着が深められ、地域の魅力を地域内外へ発信する機会が図られている。</p> <p>●実施団体の人材育成が課題である。</p>	・松山地域の歴史、文化、景観など、有形無形の資産を活用する事業を実施していく。	松山総合支所
59	松山地域振興事業(再掲)	<p>○地域おこし協力隊は、食や料理の地域資源を活用し、住民と協働して賑わいを創出し、地域活性化を図った。退任後も地域内で定住、就職を果たした。</p> <p>●退任後の起業支援及び定住支援。また継続した隊員の採用。</p>	・地域おこし協力隊は、R6から未着任のため、新たな隊員を募集していく。	松山総合支所
60	平田地域振興事業	<p>○冬の十二滝と温泉ツアーは、地域資源を学び、雪上トレッキング体験ができるイベントとして定着している。平田山岳救助隊がガイドを務め、安全に運営されている。</p> <p>●ガイドの担い手不足と高齢化。</p>	・引き続き地域資源の魅力発信に努める。平田山岳救助隊にガイドを依頼することで、本隊の活性化と育成の一助とするとともに、他団体の参加促進に努める。	平田総合支所

Ⅲ－3地域人材の育成

(1)地域の人材の把握 (2)リーダーや指導者の育成

No.	事業名	前期計画(R2～R6)の評価 成果(○)と課題(●)	改善点、方向性、今後の計画	担当
61	市民協働・公益活動推進事業	○ボランティア・公益活動センターを運営し、ボランティア体験機会の提供や、団体向け研修会の開催、活動支援のための補助制度を実施した。また、公益大大学院の地域共創コーディネーター養成プログラムの活用周知や、ボランティアコーディネーション力3級検定の開催を支援した。 ●高齢化によるボランティア・公益活動の担い手不足が課題となっている。引き続き担い手の裾野を広げるとともに、活動団体への側面支援に取り組む。	・引き続きボランティア・公益活動に取り組む市民の増加や、活動しやすい環境づくりのため、ボランティア体験の機会の提供や、各種研修会の開催、補助制度を実施し、必要に応じて事業を見直しして取り組んでいく。	共生社会課

Ⅲ－4公益活動の充実

(1)公益活動の推進と支援 (2)地域行事への参加の促進

No.	事業名	前期計画(R2～R6)の評価 成果(○)と課題(●)	改善点、方向性、今後の計画	担当
62	鳥海山・飛島ジオパーク推進事業(再掲)	○トビシマカンゾウ保全作業では、飛島小松浜に生息する市の花「トビシマカンゾウ」の保全作業を市民が行い、現在は100株以上の開花が確認されている。 ●トビシマカンゾウ保全作業は、リピーターが一定数いるが、参加者が固定化してきている。	・トビシマカンゾウ保全作業は、幅広い世代が参加できるよう周知を行っていく。	交流観光課
63	飛島活力再生推進事業(再掲)	○NPO、公益大、行政等が実行委員会を組織して、島内の清掃活動(飛島クリーンアップ作戦)を継続しており、飛島の環境保全に寄与している。 ●申込みが多く関心の高い事業だが、定期船の定員から、清掃活動の定員を増やすことができない。後泊を組み込んだツアーを実施するなどの工夫が必要。 ●高齢化により島民の参加が減り、本土からの参加者も固定化してきている。 ●悪天候により欠航が見込まれる場合、日程の再振替などに課題がある。	引き続き実行委員会の構成団体として携わっていく。	まちづくり推進課
64	市民協働・公益活動推進事業(再掲)	○ボランティア・公益活動センターを運営し、ボランティア体験機会の提供や、団体向け研修会の開催、活動支援のための補助制度を実施した。また、公益大大学院の地域共創コーディネーター養成プログラムの活用周知や、ボランティアコーディネーション力3級検定の開催を支援した。 ●高齢化によるボランティア・公益活動の担い手不足が課題となっている。引き続き担い手の裾野を広げるとともに、活動団体への側面支援に取り組む。	・引き続きボランティア・公益活動に取り組む市民の増加や、活動しやすい環境づくりのため、ボランティア体験の機会の提供や、各種研修会の開催、補助制度を実施し、必要に応じて事業を見直しして取り組んでいく。	共生社会課

65	美化サポーター活動支援事業	○美化サポーターは、毎年新規登録や花苗等の需要があり、きれいで快適な街を実現するとともに、街を身近に感じ、愛着を持っていただくことに寄与している。 ●登録団体の高齢化により、活動を辞退する団体も増えてきている。	・引き続き緑化・美化ボランティア支援制度を実施し、市民による美化サポーター活動を支援する。	整備課・共生社会課
66	認知症総合支援事業	●認知症サポーター養成講座は、コロナ禍で集合形式での講座が難しく開催回数は横ばいとなった。	・認知症サポーター養成講座は、企業、学校、PTA等の協力を得ながら実施する。	高齢者支援課
67	光ヶ丘地区環境美化ボランティア活動	○光ヶ丘地区の環境美化活動には、毎年多くの市民ボランティアに参加いただいております、市の貴重な財産を次代に残そうという意識が高められている。	・引き続き光ヶ丘地区において、市民ボランティアによる環境美化活動を行う。	整備課・農林水産課
68	手づくり公園整備事業	○子どもがのびのびと遊べる公園の環境を整え、青少年の健全な育成や地域コミュニティの形成につながっている。	・住民が手づくりで地域の特色を生かした公園づくりを行うことを支援していく。	整備課
69	森林ボランティア育成事業	○海岸林の清掃活動ボランティア、砂防林の森林整備ボランティアは、市民自らの手で守り育てる意識を高めるとともに、環境美化活動の場になっている。	・今後も継続して事業に取り組んでいく。	農林水産課

Ⅲ－5持続可能なまちづくり

(1)学びの循環による魅力のある地域づくり

70	生涯学習推進講座開催事業	○社会教育スキルアップ講座として、コミ振職員等を集め、研修と職員同士の情報交換を行った。他地区の事例の勉強などもでき、参加者には好評であった。 ○他地区の情報をもっと知りたいという声があることから、社会教育課が全地区についての情報をまとめ、共有した。	・社会教育スキルアップ講座は、引き続き、継続していく。	社会教育課
----	--------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------	-------